



学校教育目標 夢に向かって学び鍛える心豊かな生徒 -夢・学・恕-
令和7年1月8日発行

〒369-0112 鴻巣市鎌塚550 tel : 048-548-0081 fax : 048-547-1471

ホームページ : <http://fukiagekita-j-konosu.edumap.jp> E-mail : fukiagekita-j@city.konosu.ne.jp

吹上の不易と流行

吹上北中学校長 丸岡 聖典

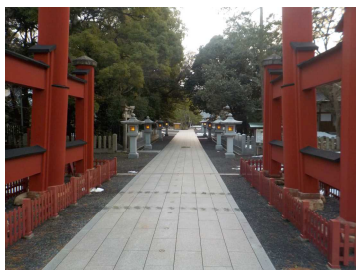
新年明けましておめでとうございます。それぞれの願いが叶うような年にしていきましょう。さて、今回のテーマは晴れた日には鮮やかな吹上富士が映える我々のふるさと「吹上」です。

歴史的に「吹上村」は江戸日本橋に発する中山道や小田原から上州（今の群馬県）を通過して日光に抜ける街道の追分（交通の要所）だったと言えます。街道を歩く人は「吹上富士でも眺めて少し休んでいこう」と足を止めたそうです。中西先生の勝龍寺の落武者の仏様伝説（『吹上のむかしばなし』吹上町教育委員会編集）も興味深いお話です。その後「吹上」の発展は、明治大正期・昭和平成期を経て現在に至ります。

連載中の「おくのほそ道 紀行」、松尾芭蕉さんは、当時大人の酒の席での遊びに低落した「俳句」に「不易流行」を説き、その価値を高めました。

- ①「不易」：昔からの流れや格式を大切にする。
- ②「流行」：斬新なアイデアやユニークな発想を否定しない。

デフレが続く閉塞感のある経済、分断や攻撃があたりまえになりつつある社会。そんな中でも、懐かしい町並みや風景、人情味のあるお付き合いがあるのがここ「吹上」。人に優しい地域の特性を持続していこうではありませんか。そして、学校では人情に厚く、新しいアイデアを創造するような人材の育成を今年も図ります。よろしくお祈りします。



〔敦賀での名月を切望していたのだが宿の主人の言葉どおり、昨晩とはうって変わって雨と natte しまった。本当に北国の天気は変わりやすいなあ〕

おくのほそ道 紀行 その三十
敦賀く…福井県
芭蕉さんは峠を越えて敦賀の町に入ります。夜、気比（けひ）神宮に参詣し松の木の間から見える月を眺めます。時は八月十四日。さあ十五夜と思えど、天気は変わりやす雨になってしまいました。そこで一句、
名月や 北国日和
（ほっこくびより）定めなき